

つ 土 第 508 号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

つがる市長 福島 弘芳



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記につきまして、別紙の
おり回答いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

青森県つがる市

- ・ 今日の大きな課題として都市部に人口が集中し、地方の過疎化が深刻になっていることが上げられる。このため、地方の活性化を図り、定住を促進するためにも、道路整備を積極的に行う事が重要です。よって、道路特定財源については、一般財源化となっても従来通り道路関係の財源として安定的に確保するとともに、市町村への配分を引き上げること。
- ・ 国の直轄道路については、県、市町村に権限移譲をせず、国の予算において管理の徹底を図るべきである。
- ・ 生活交通であるバス路線の相次ぐ撤廃や運行の廃止を受け、自治体独自で対応しているコミュニティバスや乗合タクシーの運行などに対する支援制度の創設。
- ・ 産業振興を図ることから、輸送コスト低減に向け、高速道路の料金を値下げすべきである。高速道路を有効に活用することにより、渋滞対策の効果も期待できる。
- ・ 地域高規格道路の整備は国が責任をもって強力に推進してほしい。又、有料の高規格道路は、とかく採算性が議論となるので、交通量の少ない地方においては無料のバイパス的な道路整備も必要と考える。
- ・ 国管理の橋梁については予防保全に向け万全を期すとともに、市町村管理の橋梁についても調査、補修について支援制度を充実させること。
- ・ 通学路の歩道、自転車利用空間等、安心、安全な歩行空間の整備を重点目標とすること。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ②

②－１ 地域の現状と抱える課題

青森県つがる市

○現状

当地区は冬場の気象条件が非常に厳しく、路面凍結や地吹雪等による交通障害が度々発生する。又、歩道が設置されていても除雪により雪に埋もれ歩道の機能を有していない路線が見受けられる。

県道のバイパスが整備されることに伴い、旧道が市に移管になるが管理費が増大する。

商業地区や専門科の病院は五所川原市に集中していることから、大半の市民が利用しているが、鉄道の踏切等による交通渋滞に悩まされている。

○課題

- ・ 冬期間の交通確保のため、交差点の路面融雪、歩道の確保、防雪柵の高性能化、歩道を広く取る等、雪国タイプの整備が必要。
- ・ 財政状況が厳しく除雪機械を更新するのにも容易でないことから、補助体制の強化と制度の緩和。
- ・ 踏切事故防止や渋滞解消のため、鉄道との立体交差の整備が必要と思われる。

②－２ 地域の目指すべき将来像

青森県つがる市

道路整備は地域経済の活性化や生活の利便性の向上を図る観点から重要な社会資本整備であります。特に地方における高規格道路の整備は所用時間の短縮による農林水産物等の輸送コストの低減や商工業、観光振興等あらゆる分野において活性化が期待されるとともに、災害時における物資の輸送及び救急患者の救命活動に対応する被災代替ルートとしての機能を果たすことができます。

中央と地方の公共機関などの移動環境格差を認識したうえで、道路整備を推進すべきであり、将来的には、都市への一極集中から地方への分散を図り、新たな工業団地や商業地域の創出することが地方再生につながり、若者の雇用促進や定住促進を図ることができます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

青森県つがる市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価など	○その他
歩道・街路灯整備 (防犯・交通安全対策)	富范39号線外2路線歩道・街路灯整備事業 歩道工 $L=2800\text{m}$ $W= 2.5\text{m}$ 街路灯工 $L=3700\text{m}$ 用地買収費 $A=7000\text{m}^2$	同路線は車力分屯基地A地区からC地区へ結ぶ道路で、沿線には一般住宅等があり、重要な生活道路であるとともに、集落と屏風山開畑地区や漁港を結ぶ産業道路でもあります。 近年、自衛隊車両が頻繁に通行することにより、一般車両、農耕車、歩行者等に支障を来しており、また農家の方々は早朝から日没まで作業をするため、地域住民は防犯、交通安全に対し大変、不安を抱いていることから、歩道、街路灯を設置し、これらの不安を解消するものである。 又、最近の健康志向の高まりにより、ウォーキング人口が増えているが、コースとしての利用も期待される。	